

イタリア・ボローニャにおけるアートプロジェクトの取り組み

—ART CITY BOLOGNA 2014 の事例—

Action of the art project at Bologna in Italy

—Case of “ART CITY BOLOGNA 2014”

手嶋尚人
Naoto Tejima

In Japan, in late years, there are many art projects to take a role which is the community development.

In the Europe, the art project to raise their conscious of the community development is rare, but at Bologna in Italy, the art project like this was begun in 2013. It is name 「ARTCITY」. Then, I investigate and report it.

Keywords: he community development by uniting with the citizens and the local administration, art project, Italy, Bologna, revitalization of local community, 市民参加のまちづくり、アートプロジェクト、イタリア、ボローニャ、地域活性

1.はじめに

1-1. 背景と目的

現在、日本では様々なアートイベントが催されている。目的により大きく3つに分類できる。一つ目は「アートフェア東京」などアートを市場原理の中で活性化させる目的のもの。二つ目は「横浜トリエンナーレ」のようにアートの先端を見せることで文化的価値での活性化を目的とし、かつ催される都市や地域のポテンシャルを上げようとするもの。三つ目は「葉山芸術祭」や「黄金町バザール」、「芸工展」など軸足をアート以上にまちづくりに置いているものがある。この二つ目と三つ目が本稿でいうアートプロジェクトに該当する。

そして、「大地の芸術祭」や「中之条ビエンナーレ」などは、二つ目と三つ目の中間的なものと考えられ、特に BEPPU PROJECT は「混浴温泉世界」では二つ目の役割を担い、「マップ・アート・マンス」では三つ目の役割となって、双方を意識したアートプロジェクトと言える。1)2)3)4)

日本ではこうした状況であるが、アートイベントの先進地域であるヨーロッパではどうか。1970年に始められた「アート・バーゼル」は一つ目を代表する。二つ目を代表するものとして、先鋭的アートの祭典である「ヴェネツィアビエンナーレ(1895年開始)や「ドクメンタ(1955年開始)」がある。しかし、三つ目は、ヨーロッパでは位置付けがこれまで無かったようである。もちろん各アートイベントから波及する形では近いものは見受けられるが、意識的にまちづくりの視点は見受けられない。そうしたヨーロッパでの状況ではあるが、イタリアのボローニャで、三つ目と思われるアートプロジェクトが2013年より「ART CITY Bologna」という名前で行なわれている。

本稿では、この「ART CITY Bologna」を調査研究することにより、ヨーロッパにおける今後のアートプロジェクトの方向性を考えること。これは市民参加のまちづくりの方向性も示唆すると思われる。また、日本におけるアートプロジェクトとの比較により、日本のアートプロジェクトの方向性を考える一助になると考える。

1-2 ART CITY Bologna 開催にいたる経緯

ボローニャは人口約37万人の基礎自治体(コムーネ)。都市計画においては中心市街地の空洞化をふせぐ住宅政策としてポルティコの街並み保全のまちづくりで実績がある。また、ボローニャ大学はヨーロッパ最古の大学といわれ、大学都市であり、音楽面であるがユネスコの創造都市となっている。

ボローニャにおけるアート関係のイベントは、「BOLOGNA FIERE」と呼ばれる国際展示会場で1975年より毎年「ARTE FIERA ボローニャ国際現代美術見本市」が開かれている。近年このイベントにあわせ市内でも、私的公的の両方で様々なイベントがバラバラに行なわれる様になってきた。この混乱した状況を2012年よりボローニャ市と「ARTE FIERA」を運営する会社が協力しまとめることとなった。そして、2013年1月ボローニャ市の現代美術館であるMAMboを核に新たに市内の歴史的建造物等を展示会場としたアートプロジェクト「ART CITY Bologna」がおこなわれるようになった。MAMboのある地区はもともと環境の悪化していた地区でMAMboやCineteca(映画フィルム修復等の事業を行う)がつくられることによって治安が良くなり周辺のアパートの価値も上がってきている。アートを起爆剤としたまちづくりの経験があった。

* 正会員・東京家政大学家政学部造形表現学科(Department of Art and Design, Tokyo Kasei University)

1-3. 調査の方法

本稿を執筆するにあたって以下の調査を行った。

【ヒアリング調査】

- ・ Mr.Gianfranco Maraniello (ARTCITY の総括ディレクター、ボローニャ博物館機関 エグゼクティブ・ディレクター)
 2013 年 11 月 16 日 於：MAMbo
- ・ Ms.Iliaria (ARTCITY Children 担当、MAMbo 教育部門)
 2013 年 11 月 16 日 於：MAMbo
- ・ Ms.Alessandra Delvino (Arte Fiera プロジェクトマネージャー)
 2013 年 12 月 18 日 於：BOLOGNA FIERE
- ・ Ms.Elisa Schiavina, Ms.ElisaMaria Cerra (MAMbo プレスオフィス) 2014 年 2 月 13 日 於：MAMbo

【現地取材】

- ・ ART CITY Bologna2013 2013 年 2 月末にボローニャを訪れた際に一部継続されていた催しを見てその存在を知る。
 - ・ ART CITY Bologna2014 2014 年 1 月 24~26 日
 - ・ ARTE FIERA Bologna2014 2014 年 1 月 24 日
- その他、Web 等での情報収集。

ART CITY Bologna2015 については、飯田有希乃さん (ボローニャ在住) より情報を提供してもらう。

2. ART CITY Bologna の概要

ボローニャで毎年 1 月末に行なわれている「ARTE FIERA」の期間内 3 日間で「ART CITY」が実施される。さらにその中の土曜日一日が「ART CITY White Night」として夜中まで催される。また、子どもを対象としたものとして「ART CITY Children」や映画関係の「ART CITY Cinema」がある。

「ARTE FIERA ボローニャ国際現代美術見本市」は、ヨーロッパで有数のアートフェアであり、数多くのギャラリーやアーティストが参加し「BOLOGNA FIERE」国際展示会場を舞台に商取引が 4 日間行なわれる。

- 第 38 回 2014 年 1 月 24 日~27 日 入場者数：42,000 人
 171 のギャラリー、1,100 人以上のアーティスト
- 第 39 回 2015 年 1 月 23 日~26 日 入場者数：52,000 人
 188 のギャラリー、2,000 以上の作品



写真1 ARTE FIERA ボローニャ国際現代美術見本市の会場入口

「ART CITY」は 2013 年 1 月に生まれた新しいプロジェクトである。それ以前から「ARTE FIERA」の一部としてボローニャ市の博物館や美術館と連携して行なわれた「ART FIRST 2012」な

どもあったが、そうした歴史的都市の中で行なうプロジェクトを整理しボローニャ市が中心となり誕生したプロジェクトである。

ボローニャ市内に存在する市立・国立博物館、美術館、大学機関、私的機関、財団、銀行、公共機関、民間団体、文化的職業従事者の協力連携で実現されている。市民や訪問者は、これらの加盟施設や「Bologna Welcome」などのインフォメーションセンターでガイドマップ (無料) を手に入れ、このマップや Web 上の情報、案内サインに導かれ市内の歴史的街区、歴史的建築物にある加盟施設でアートを楽しむことができる。さらに加盟施設を巡る形で会期中、公共交通機関による無料の ARTCITY 専用バスが 20 分間隔で走っている。このバスは「ARTE FIERA」会場とも結び、双方の魅力の増大が計られている。会期中は加盟施設の開館時間の延長や「ARTE FIERA」のチケット保有者は加盟施設への入場無料や割引を行なう等のサービスも行なわれている。

また、「ART CITY Children」は「ART CITY」の事務局を担っている MAMbo にある教育部門が行なっているもので、家族や子ども向けの企画を通じ、現代美術をより身近に感じられるようにワークショップなどを行なっている。「White Night」の日は親たちに自由にアートを楽しんでもらう目的で、子どもたちだけのワークショップを行ない、託児所的な役割も果たしている。

第 1 回 2013 年 1 月 25 日~27 日 28 の加盟施設

第 2 回 2014 年 1 月 24 日~26 日 訪問者数：89,000 人

37 の加盟施設と 14 の民間ギャラリー

第 3 回 2015 年 1 月 23 日~25 日

メインスレッド「古代と現代、過去と現在の会話」

38 の加盟施設と 14 の民間ギャラリー



図1-2 ART CITY Bologna 2014 で配布されたガイドマップ

「ARTCITY White Night」は、会期中の土曜日の夜に街のあちこちで開かれる大きなフェスタである。加盟施設は24時まで開館され、現代美術のギャラリーも真夜中まで臨時オープンし、それぞれにベストコレクションを公開する。それに加え、「White Night」参加のホテル、ショップ、カフェなどの様々な主体が展示、フィルム上映、パフォーマンス、パーティーなど200を超えるイベントを真夜中まで繰り広げ、芸術の白夜を盛り上げる。また、「White Night」のイベントは数が多いこともあり、イベント内容や場所のマップ等はWeb上だけとなっている。

一般に「White Night」のイベントは、イタリアでは別名「Notte Bianca」とも呼ばれ、他の都市でも行われている。このイベントと「ARTCITY」を融合したものと考えられるが、ここでの特徴は、参加しているショップやカフェは、この一夜で終わらず前後でも展示等の活動しているところが多く、それが「ARTCITY」でのアートの幅を広げ、まちづくりや地域活性に貢献していると考えられる。

- ・ ARTCITY White Night2013 開催されていたか確認できていない。ガイドマップでの記載はない。
- ・ ARTCITY White Night2014 参加場所数：155 カ所
- ・ ARTCITY White Night2015 参加場所数：146 カ所

3. ART CITY Bologna2014 の特徴

3-1. 企画と運営

「ART CITY Bologna 2014」は、MAMboをはじめ13の市立博物館のディレクターであるマラニエッロ氏（Mr.Gianfranco Maraniello）が、1回目の2013年より引き続き、総指揮をとっている。（2015年も継続）「ARTE FIERA」自体の内容には関与せず、市内での企画に専念し、ボローニャ市の持つ歴史的建築物や博物館などの文化的な価値のあるものがアートの力でより顕在化し多くの市民や訪問者に知ってもらおうことを重視した。

企画運営する体制としては、MAMboの職員が4名、市の文化部職員が2名、マラニエッロ氏を含め7名で行っている。他ボランティアスタッフとして、大学生の実習（150h-200hで単位となる）として受入れているが、企画内容等までの戦力にはなっていない。広報もこのメンバーで行っており、11月美術雑誌で掲載されたもののWebが完成するのは1週間を切っている。

「ARTCITY」の加盟施設は特に公募することではなく、マラニエッロ氏により決定されている。また、イベント企画も公募せず、マラニエッロ氏の判断により、アイデアを持つ側とスペースや設備を持つ側との組合せを行った。マラニエッロ氏の熱意と人柄、人脈でこのイベントは成功しているという感がある。一方、「ARTCITY White Night」は、アートに関連していれば参加は自由であり、「ARTE FIERA」に申し込むことで参加できる。「ARTCITY」に比べ、誰もが気軽に参加できるスタイルであり、少なくとも150前後の団体や人が参加している。

資金的には、「ART CITY 2014」の予算として、80,000ユーロがARTE FIERAから支出されている。

3-2. ART CITY 加盟施設について

「ART CITY Bologna 2014」に参加している加盟施設は37カ所

であり、その概要（施設名、主体、キュレーターの所属（Cで表記）他）は以下である。

- 1 Museo per la Memoria di Ustica ウスティカ記念博物館
ボローニャ市 展示作品は常設のもの、MAMboが管理
- 2 Rifugio antiaereo 防空壕 MAMboが企画管理
- 3 Fondazione Collegio Artistico Venturoli
財団 アンジェロ・ヴェントウロリ 芸術家を奨学金で支援
キュレーターなし 若き芸術家のアトリエを公開



写真-2 中庭に面した回廊から様々な美大生のアトリエに入る

- 4 Pinacoteca Nazionale di Bologna 国立絵画館
イタリア共和国 MAMboと企画
- 5 Chiesa di Santa Maria Maddarena
サンタマリア マッドレーナ教会 ボローニャ大学で企画
- 6 Museo di Palazzo Poggi ボッジ宮博物館
ボローニャ大学 キュレーターは外部



写真-34 左が6での展示。右がFIERAでの展示。同じ作家の同じシリーズの作品が違う環境で見られるのは興味深い。

- 7 Circolo Ufficiali dell'Esercito di Bologna 軍当局者の会
イタリア共和国 キュレーターは外部から
- 8 UniCredit, Palazzo Magnani マニャーニ宮殿
銀行財団 ウニクレディト
- 9 Biblioteca Multimediale Roberto Ruffilli
マルチメディア図書館 ロベルト・ルッフィツリ
ボローニャ市 キュレーター外部から
- 10 Museo internazionale e biblioteca della musica di Bologna 国際音楽博物館・音楽図書館
ボローニャ市 C: Gianfranco Maraniello

- 11 ZOO 民間のギャラリーカフェ
C: 文化協会 CANICOLA (主な活動 漫画出版)
- 12 Fondazione Zucchini Spazio ブックエリ財団
C: アカデミア美術学校教員
- 13 OPENQUADRA 民間のシェアデザインオフィス
C: 文化協会 HOMELIN (主な活動 文化 文学 漫画)
- 14 Casa Morandi モランディの家
ボローニャ市
- 15 SANTEVINCENZIDUE 写真の展示とワークショップ
- 16 Palazzo Pepoli. Museo della Storia di Bologna
ペポリ宮 ボローニャ歴史博物館
財団 CARISBO
同財団によるコンクールで選ばれた作品を展示
- 17 Palazzo Pepoli Campogrande
ペポリ宮 カンボグランデ
イタリア共和国 C: 国立絵画館、ボローニャ大学
- 18 Casa Saraceni サラチェーニの家
財団 CARISBO C: 同財団
- 19 Galleria Cavour ガレリア カヴール
各ショップは民間 C: ガレリアカヴールコンソーシアム
- 20 Museo Civico Archeologico 市立考古学博物館
ボローニャ市 キュレーター外部から
- 21 Museo della Sanita' e Assistenza di Santa Maria della Vita 健康博物館 サンタ・マリア・デッラ・ヴィータの支援
USL (ボローニャ市の健康機関) C: 財団 CARISBO



写真5 ルネサンス期のテラコッタを現代作家が写真で表現

- 22 Palazzo Re Enzo-Cappella di Santa Maria dei Carcerati
エンツォ王宮殿 ボローニャ市
- 23 Palazzo d'Accursio 市庁舎 ボローニャ市
- 24 Salaborsa サラボルサ図書館
ボローニャ市 C: ボローニャ大学



写真6 元証券取引所の図書館に紙をテーマの現代美術がおかれる

- 25 Grand Hotel Majestic グランドホテル・マジェスティック
民間 キュレーター兼パフォーマンスは外部から
- 26 Museo Civico Medievale 市立中世博物館
ボローニャ市 キュレーター外部とボローニャ博物館機関



写真7 デリダをモチーフにした仏人による朗読のパフォーマンス

- 27 Oratorio San Filippo Neri オラトリオ・サン・フィリッポ・ネーリ 財団 デル・モンテ キュレーター外部から
- 28 Fondazione del Monte di Bologna e Ravenna
財団 デル・モンテ C: Gianfranco Maraniello と外部から
- 29 Biblioteca d'Arte e di Storia di San Giorgio in Poggiale
アートと歴史図書館 財団 CARISBO C: 同財団



写真8 廃教会を財団が管理運営している。ARTCITY では特別展

- 30 Raccolta Lercaro レルカロ コレクション
Lercaro 財団 (教会関係) C: 外部から
- 31 Raum ラウム
パフォーマンスとミクストメディア制作
- 32 Istituto Storico Parri 歴史機関 パルリ
カタログのプレゼンテーションと投影
- 33 MAMbo - Museo d'Arte Moderna di Bologna
マンボ モダンアート博物館
ボローニャ市 C: ボローニャ大学 現代詩センター、
アカデミア美術学校教員、マンボ 教育部門



写真9 MAMbo 教育部門による WhiteNight でのワークショップ

- 34 Cinema Lumiere Cinema Odeon Cinema Rialto
映画館 ルミエール オデオン リアルト
- 35 MAST : 243 産業写真の作品
- 36 C.U.B.O-Spazio Arte
- 37 Senza Filtro / ST59 パフォーマンス

3-3. 加盟施設と参加作品の特徴

「ARTCITY」に参加している加盟施設は、博物館や美術館といった公共の組織・施設だけでなく、財団が多く参加している点が、日本とは違う特徴といえよう。加えてボローニャ大学やアカデミア美術学校といった教育機関も参加していることにより、まさにボローニャ市全体で活動している状況がわかる。それは、市民社会の成熟度が高いとも言え換えることができるのではないだろうか。もちろんそれら異なる様々な組織をコーディネートすることは大変な苦労はあったと想像できる。

そして、新しい動きとして、ZOO (民間のギャラリーカフェ) や OPENQUADRA (民間のシェアデザインオフィス) は、創造的な活動をする若者の拠点となっていることも重要である。さらに、加盟施設となっていないが「White Night」参加団体の中でも幾つかそうした動きを見つけることができた。

このように加盟施設の状況を見るだけでも、このアートプロジェクトの豊かさが感じられる。



写真10 ギャラリーカフェ ZOO White Night でも賑わった

参加作品もとてもバラエティに富んでいる。現代アートが基本ではあるが、財団のコレクション等では古典的なものもあり、また、画家モランディもボローニャにとっては外せないアーティストである。マラニエッロ氏は「アートは大衆のものであり、恵まれた都市環境というメリットを活かしつつ、街全体が文化の価値の普及に参加できるのです。」とコメントしており、現代アートが歴史的環境を活かす魅力は持っているが、固執している様には見えない。



写真11 UniCredit 財団所有の古典的コレクションの展示

ひとつ残念な点は屋外での作品がほとんど無いことである。それだけ屋内でも展示できる魅力的なスペースが多いということではあるのだが、屋内の場合は、どうしても意識しその場所に行き作品を見ることになってしまう。もっと市民がアートと街の環境に親しみ再発見するには、屋外展示も重要だと思った。



写真12 商店街ギャラリー内での現代アートの展示

屋内展示ではあるが、これだと誰でも鑑賞できる

4. おわりに

本稿で述べてきた一連のアートイベントについて、1-1 背景と目的で示したアートイベントの3つの分類で考察してみたい。「ARTE FIERA」はもちろん一つのアートを商業的な視点でとらえたものであり、「ARTCITY」は2つ目の「ヴェネツィアビエンナーレ」や「ドクメンタ」ほど、先鋭的であり国際的なアートではないが、現代アートの先端から古典まで幅広いアート作品をこれだけ多く市民や訪問者が気軽に楽しめる点は、アートプロジェクトとして先進的といえる。また、「ARTCITY White Night」はその一夜だけ見ればフェスタだが、その前後の活動やそれに参加している団体を見るとまちづくりの予感がする。三つ目のアートプロジェクトの方向性を持っている。

イタリアにおいて、こうしたアートプロジェクトが出てきたことは、ソフトのまちづくりの重視とまちづくりにおける市民参加の動きと呼応しているのかもしれない。それともボローニャ独自のものなのだろうか？ただ、アートが大衆のものであると考えた時、まちづくりでの役割が大きくなっていくことは予想できる。

「ARTCITY」「ARTCITY White Night」の取材を通し、日本ほど経済的な効果を考えている様には思えず、改めてまちづくりにとって、アートを媒介とした心の豊かさ、まちの楽しみをつくっていくことが大切であることを再確認できた。

参考文献

- 1) 「地域の住まい・まちづくり活動研究 (アートプロジェクト編①)」
2011年3月31日 住まい・まちづくり担い手支援機構
- 2) 「地域の住まい・まちづくり活動研究 (アートプロジェクト編②)」
2012年3月31日 住まい・まちづくり担い手支援機構
- 3) 「芸術創造と公共政策の共創を誘発するアートプロジェクトの研究」
谷口文保 2013年3月 博士論文
- 4) 「アートプロジェクト 芸術と共創する社会」熊倉純子監修
2014年1月18日 株式会社 水曜社
- 5) www.artefiera.bolognafierra.it